

【社会保険労務士法人 大槻経営労務管理事務所】

配信登録をいただきまして、誠にありがとうございます。

大槻事務所のメールマガジンをお送りいたします。

2013年2月号

\*.☆

#### 【目次】

▼室長の現場レポート（第2回目） 銀座支社第二室 室長 杉山 悟一

▼大槻事務所スタッフのおすすめの〇〇（第6回目） 澤口 早苗編

▼大槻事務所だより 2月号

[http://www.otuki.org/p\\_otsukidayori/pdf/vol47.pdf](http://www.otuki.org/p_otsukidayori/pdf/vol47.pdf)

▼セミナー案内 3月開催予告

▼幣所の「労務デュー・デリジェンス」をご活用ください。

---

▼室長の現場レポート（第2回目） 銀座支社第二室 室長 杉山 悟一

先月の14日（月）は関東地方が大雪に見舞われましたが、この日は皆さまご存知のとおり成人の日でした。新成人にとっては本当に忘れられない日になったのではないのでしょうか。

今年の新成人は122万人（男性：63万人 女性：59万人）とのことです。成人したことにより、飲酒・喫煙が解禁となり大人の味を楽しんでいるものと思いますが、彼らまた彼女らの多くは2・3年後には真の意味での大人＝社会人となるために就職活動をおこなうこととなります。就職活動は年々厳しさを増すばかりですが、企業側にとっても有能な戦力を獲得するための採用活動は一大事です。今回は現場の声もまじえて採用に関する事について話しをさせていただこうと思います。

大学卒における入社後3年目までの離職率は、厚生労働省のデータ（「新規学校卒業就職者の在籍期間別離職状況」）によると、平成21年3月卒で28.8%つまり3人に1人の割合で3年以内に何らかの理由で退職していることになります。

新卒者採用で企業が採用にあたって特に重視した点で最も多かった点は【コミュニケーション能力】

（経団連「新卒採用に関するアンケート」）、一方、新入社員が希望する働き方では【職場の先輩や他部門とチームを組んで、成果を分かち合える仕事】（日本生産性本部「2012年度新入社員春の意識調査」）が最も多いというデータがあります。つまり雇う側・雇われる側双方とも考えは同じであるにもかかわらず、ミスマッチがおこっているのは意思疎通がとれていないことが1つの原因としてあるのではないのでしょうか。

実際にクライアントから「欲しい人材（企業が求める人材）を獲得するにはどのようにしたら良いか？」と問われる場面があります。

私はお互いの最初の【出会いの場】である、募集・面談（選考）が重要であると答えています。なぜならば、優秀な技術や能力を有していたとしても、それを採用する側が求めているなければミスマッチにつながるからです。要するに就職志望者に『企業としてどのような人材を欲しているのか』というメッセージを具体的に伝え、志望者がうちの会社にとって適材であるか否か面と向かって審査することにより、前述のミスマッチを多少なりとも防ぐことができると考えるからです。この“メッセージ”が募集要項であり、“審査”が面談（選考）にあたります。

募集において、「総合職：男性 10 名女性 1 名」といった男女別の採用人数を決めることは男女雇用機会均等法で禁じられており、女性が男性と比較して 4 割を下回っている部門について採用の基準を満たす者の中から男性より女性を優先して採用する「ポジティブアクション」は除く、また面談（選考）においても本人に責任のない家族状況・出身地また本来自由である思想信条に配慮しなければならないといった様々な規制がある中で、適正な人材を確保する（見極める）のはかなり難しく、やはり私の周りのクライアントも面談時における質問事項等に苦慮されているようです。

そういったなかで最も印象に残った質問事項を挙げたいと思います。

「前職を退職した理由は？」と質問する企業は多いと思いますが、あるクライアントでは『前職を志望した理由は何ですか？』とあわせて聞いています。前職を退職した理由にミスマッチがあったならば、おそらくは面談時のコミュニケーション不足に原因があり、それを防ぐためにおこなっているそうです。これを踏まえ具体的に「志望動機」を聞き、より具体的に「求める人材」を伝えているそうです。

会社の考えが伝わらなければ、会社が欲している人材に巡り合うことは難しいでしょう。私は募集要項・面談（選考）においては相手に“伝えること”ではなく“伝わること”が重要だと考えます。会社のビジョンに基づいたメッセージを一方向的に“伝える”のではなく、“伝わること”で相手が理解して双方ともに意思の疎通がはかれ、結果的に良い関係を築くことができるからです。

以上私が現場で目にする課題を書かせていただきました。今後とも“伝えること”ではなく、“伝わること”を念頭にアドバイスをする社労士として皆さまのお力になればと思います。

銀座支社第二室 室長 杉山 悟一

---

▼大槻事務所だより

2月号の特集は「脱退一時金（外国人）」と「社会保障協定」です！

紅白の愛らしい花びらは丸く柔らかく、その中心のめしべはまるで長いまつげを瞬かせているように私たちに魅きつけます。

－ 寒冷の中の春。“梅” －

勇気あるその先駆者を前に背筋がすっと伸びる気がしました。

形の良い枝に咲き誇る花の美しさに引き止められてしばらく立ち止まって眺めていると、冷たい空気の中で甘い香りに包まれ、忘れていた五感が急に感覚を取り戻し自然の甘美に冷えていた心にも温もりが感じられます。

ほっと心の緊張がとけると共に体の余分な力も解け、甘い香りを吸い込んだ時に入ってきた新鮮な空気が全身に気持ちよく広がり体内にもエネルギーが湧いてきます。

そう思うと、身近な日常の中にも心と身体の繋がりとバランスを感じる瞬間があることに気付かされます。

心がリラックスしている時には身体も心地よく、また身体が心地よい時に心もリラックスしている・・・体の感覚に耳を澄ませていると自然と新しいことに目を向ける気持ちが起こり、新しい発見する楽しみが生まれます。

五感を使って身体感覚を目覚めさせることで心にも彩や充実感、新鮮さを育むことができるよ、と梅の花に囁かれたようにも感じます。

そこで今回は、身体感覚を味わうことの1つとして、私の趣味事「踊り」についてご紹介させて頂きたいと思います。

個人的な体験で恐縮ですが、心身がリラックスして新鮮な感覚・気持ちになる楽しみです。

ご興味湧いた方はどうぞお試しください。

私が踊りを始めたのは遅く、20代半ば頃。社会人になり何か新しいことにチャレンジしてみようと以前から興味があったジャズダンスを始めました。全くの未経験で、身体が柔らかい、リズム感が良い...などの素質とは無縁の私ですが、踊りの魅力に惹かれ続けています。

レッスンでは踊りを通して体験した沢山の学びがあります。

### 【 まず動いてみる 】

どんな不器用な動きとなってしまっても、まず動いてみないことには何も始まらないのが踊りです。

振り付けを覚えるのも目と頭の中で覚えるのではなく、実際に体も動かしてみないと体には馴染んできません。

なかなか思うように動かさず歯がゆい思いをすることも多々あります。それでも失敗の怖さを乗り越えて動いてみるとそこから新しい変化や動き・発見があることに気づきました。できないことも小さな積み重ねで動き～動きへとつながっていくことを体験しています。

### 【 客観的に観察する 】

身体の1つ1つのパーツを効率的にすることで動きの心地よさが変わります。初めは手を動かすと脚が思うように動かないなどちぐはぐな動きになり情けない限りですが、「今この動きができないことは事実」と現実を受け止めて、練習に集中します。

その時に役立つのが、「客観的に自分を観察する」ことです。床の感覚が足の裏に伝わっているか、体に無理な方向性に腕や脚を動かしていないか？どこか一部の筋力だけで頑張ってしまうか？右腕と対称となる左脚の力のバランスはどうか？どの方向性に身体を広げたら最大限の力を生かせるのか？など、動きの中で身体のパーツのつながりや力の配分・方向性を客観的に観察します。力を入れすぎたり、方向性を誤ると身体からの反応がありますので修正する助けとなります。形をとることだけでなく、客観的に自分と向き合い動きの中に生まれる変化を感じ取り更に変化を作り出す醍醐味も踊りを通して味わっています。

さてもう1つ、踊りの楽しさの副産物というべき身体への効果をご紹介します。

### 【 全身から汗でデトックス 】

1回のレッスンを終わると全身から大量の汗が出ます。

夏でも冬でも体内の血流が良くなり免疫も高まり内側の新鮮さを保てる気がします。

### 【 姿勢 】

姿勢を意識するようになり、歩き方や体のパーツの使い方が変化してきました。

歩いている時も、自分が今「肩甲骨と骨盤がバランスよく動いているな～」とか「膝で歩いている感じがして変だな～」とか「骨盤の感覚がないな」とか「足裏のはらが硬いな～」など心地よく歩いている感覚があるかどうかなど感じたりすることもあります。

心地よい姿勢や動作を身につけることで体調を整えることができる気がします。

その他、腕を大きく動かすため肩凝りや頭痛などが解消され、骨盤も動かし調整されるため、レッスンの後はズボンの腰周りがゆるく感じることもあります。ある方はレッスン前の夕方にむくみで履くのが困難であったブーツが、レッスン後は簡単にすっと履くことができた等々。楽しみのおまけに様々な効果もあり嬉しい限りです。

もし、ダイナミックな踊りは少し抵抗があるという方は、様々なジャンルがあるので好きな音楽などからチョイスされるのもよいかと思います。

クラシック、ロック、R&B、ジャズ、ポップス、エスニック、イメージミュージック...どんなジャンルの音楽でも好きな音楽が耳からそして皮膚から身体に入ってくると自然と心に響いたり身体を動かしたくなったりするのは人間の本能かもしれないとも思います。

実際に、コンサートやライブ、カラオケなど、気がつくとなぜか揺れ動いている人々が沢山います。やはり本能なのかな・・・と。

「動き」が原始となり発展してきた「踊り」。少し足でリズムをとったり気持ち良く伸びをしてみたり...。踊りの躍動が身体から溢れている時、生き生きとした新しい感覚を体感できることと思います。踊りは瞬間の芸術とも言われますが、一瞬一瞬を集中している時に生まれる新鮮な動きが心とも共鳴して輝いて見えるのかもしれない。

最後に、有名な禅の歌を1つご紹介させていただきます。

春有百花秋有月　　春に百花有り秋に月有り  
夏有涼風冬有雪　　夏に涼風有り冬に雪有り  
若無閑事挂心頭　　若し（もし）閑事の心頭に挂こと無くんば  
便是人間好時節　　便ち（すなわち）是、人間の好時節

春には百花が咲きほこります。  
秋には澄んだ夜空に月が美しく輝きます。  
夏には暑さの中にも涼風が吹き、  
冬はしんと白く雪が降り静寂が訪れます。  
もし心に引っ掛かりが無ければ、  
春夏秋冬、いつでも素晴らしいと眺めることができます。

歳を重ねて益々、自然に触れ、動きを感じ、新鮮な澄んだ気持ちを持ち続けることができれば本望です。

〈澤口 早苗（さわぐち さなえ）プロフィール〉

2002年9月より給与担当。

---

▼セミナー案内 労務管理特別セミナー 3月12日開催予定

カラテカ 入江慎也の『後輩力から学ぶ社内コミュニケーション』（仮）  
「先輩や上司とうまく付き合えない」



集めての研修が今年もやってまいりまして、今年のテーマは「労働組合と団体交渉する際の実務」です。五感を研ぎ澄まして励みたいと思います。「室長の現場レポート」杉山室長はこちらです。

→ <http://blog.livedoor.jp/otsukiorg/>

編集・発行： 社会保険労務士法人 大槻経営労務管理事務所 加藤 悦子

問い合わせ： [https://ssl58.heteml.jp/ipocket/form\\_otsuki/index.php?act=form\\_contactus](https://ssl58.heteml.jp/ipocket/form_otsuki/index.php?act=form_contactus)

Webサイト： <http://www.otuki.org/>